

令和5年度 三鷹中央学園 三鷹市立第七小学校 学園・学校評価報告書

このことについて、下記のとおり報告いたします。

記

学園評価		学校評価								
今年度明らかになった課題のうら、特に次年度の重点とすること		今年度明らかになった課題 ※「第2回学校関係者評価」を経て記述								
①「中央学園スマイルアクション！」の幅広い広報活動と実践 ②学園研究を行う際の共通理解と共通実践 ③教員の働き方改革	<p>①たより、ホームページ、掲示等、多くの手段を用い、周知している。また、それぞれにて、熟議やアンケート等を行い、具体的なアクションを考えている。</p> <p>②研究推進委員会を中心として、研究協力校としての1年目の成果物を作成するとともに2年目の計画をしっかりと立てる。</p> <p>③小さなこと、できることから実践、引き続きの教員の意識改革に取り組む。</p>	<p>①校内研究(国語)を核とした授業改善により、「自分の考えをもち、友達と話し合ったり、協力したりする授業は楽しい」と回答した児童は91.3%と高く、一定の成果が得られた。次のステップとして、教科(国語)の特性や発達段階に応じた自立した学びの姿につなげていくことが課題である。</p> <p>②運動することへの苦手意識や抵抗感がある児童も含め、みんなが体を動かす楽しさを実感し、運動習慣の定着を図ることによって体力を向上させていくことが課題である。</p> <p>③教員がウェルビーイングを実感できる働き方改革</p>	<p>①国語(文学的文章)の学習における問いのたせ方を工夫することで「個別最適な学び」や「協働的な学び」の一体的な推進を図り、さらに自立した学びへとつなげていく。</p> <p>②体育の授業づくりや体育旬間の取り組み方を工夫・改善し、自分のペースで楽しく運動できるようにする。個別の体力調査ツールを活用し、自己の体力向上への意識を高める。</p> <p>③経営支援部(アスリート)の招聘や関係機関と連携した取組を充実させ、運動する良さや楽しさを実感させる。</p> <p>④経営支援部に配置する働き方改革主任を中心に、教員一人一人が当事者意識をもって働き方(優先順位、効率化、時間等)について考え、知恵を出し合いながら小さなこと、できることに取り組んでいく。</p>							
取組項目	今年度の重点目標	成果	課題と改善方法	取組項目	学校の経営目標(中長期目標)	今年度の重点目標(本年目標)	今年度の重点目標を達成するための具体的な方策	第1回評価 第2回評価	自己評価(第2回)	学校関係者評価(第2回)
コミュニケーション・スキルの運営	コミュニティ・スクール委員会の協働と支援の充実を図る。	<p>○CS委員会の中で、熟議や学校部会等を行い、多くの意見交換をすることができた。</p> <p>○「三鷹中央学園パワーアップアクションプラン」の改訂を行い、名称を「中央学園スマイルアクション！」とし、生徒・保護者に周知できた。</p> <p>○防災授業に地域人財とともに取り組んだと回答した教員は、85.9%と高く、三鷹中央学園9年間の防災教育の充実が図られた。また、人財活用による学習効果は、95.8%の教員が高まったと回答している。地域人財を積極的に活用した教育活動が進められている。</p>	<p>①地域学校協働本部への移行</p> <p>②「中央学園スマイルアクション！」の幅広い広報活動と実践</p> <p>③学園として統一した形の防災教育の実践</p>	<p>①コミュニケーション委員会を核に、学校と地域の協働を進める。</p> <p>②「スクール・コミュニティ」を創造する。</p> <p>③地域等の人材や学校施設を活用し、コミュニティ・スクール委員会と協働することを通じて、地域づくりの核となるスクール・コミュニティを目指す。</p>	<p>①「三鷹中央学園はぐくみプラン(仮称)」を各所に周知し、実践する。また、更なる改善に向けて取り組む。</p> <p>②地域等の人材や学校施設を活用し、コミュニティ・スクール委員会と協働することを通じて、地域づくりの核となるスクール・コミュニティを目指す。</p>	<p>①三鷹中央学園はぐくみプラン(仮称)を各所に周知し、実践する。また、更なる改善に向けて取り組む。</p> <p>②防災課やみだかSCサポートネット等の協力を仰ぎ、三鷹中央学園9年間の防災授業を行う。</p>	<p>3</p> <p>-</p> <p>4</p> <p>1</p>	<p>学園の83.1%(第1回70.8%)の教員が生徒に向けて「はぐくみプラン(仮称)」について話をしたと回答している。知っているとは回答した保護者は、15.6%であった。</p> <p>まずは、「中央学園スマイルアクション！」を児童・生徒、保護者に認識していただくために努力すること。そして、具体的なアクションをそれぞれが考えていく必要がある。</p>	<p>該当15名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の認知度が低いのは工夫の余地ありと思います。 ・中央学園スマイルアクション！の周知や活動の具体的な取り組みに期待。 ・「中央学園スマイルアクションプラン」を保護者にどう周知して行くのかが課題。CS委員会と共同で頑張りたい。一緒に考えていきたい。 ・はぐくみプランの周知について前回より10%以上、上がっている。 ・中央学園スマイルアクション！と名称変更後の、各校での取り組みを年度末にでもお聞きしたいです。 	
中・小・中の教育活動連携	学園研究会の活性化と交流活動の一層の充実を図り、学園として一体感を深める。	<p>○市の研究協力校として研究授業を3校ともに実施した。自らの授業を生かした教員は、88.1%あり、有意義な研究授業となった。また、授業が分かるという児童・生徒も90%以上あり、児童・生徒の実態に即した授業が展開できた。</p> <p>○交流活動は、コロナ禍前に戻り、多くの交流が行われたことが成果である。対面での熟議等も行うことができた。交流活動が学園の一体感を生み出しているという回答した教員は85.9%あり、小・中一貫の重要な要素となっている。</p>	<p>①次年度研究協力校の発表に向けた準備と実践</p> <p>②交流活動の成果検証</p>	<p>①校種を超え、学園教員としての一体感を生徒や教員に醸成する。</p> <p>②「児童・生徒の自立的な学び」を目指した授業改善を行う。</p> <p>③学園の交流委員会の主導で、児童と生徒の交流活動を活性化し、学園として一体感を深める。</p>	<p>①講演を聞き知識を増やしたり、研究授業を行い意見交換、指導を得たりするなど、授業改善に努める。</p> <p>②学園の交流委員会の主導で、児童・生徒会交流、小中交流、小中交流、小学生授業体験、合唱リハーサル鑑賞等を実施する。(コロナ後の交流を確立する。)</p>	<p>①講演を聞き知識を増やしたり、研究授業を行い意見交換、指導を得たりするなど、授業改善に努める。</p> <p>②学園の交流委員会の主導で、児童・生徒会交流、小中交流、小中交流、小学生授業体験、合唱リハーサル鑑賞等を実施する。(コロナ後の交流を確立する。)</p>	<p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>4</p>	<p>88.1%の教員が「自らの授業に生かされた」と回答している。今年度、来年度の2年間は、市の研究協力校の取組として充実したものにしたい。</p> <p>「授業がよく分かる」に対して肯定的な回答した児童・生徒は、三小92.7%、七小91.0%、四中88.6%であった。</p>	<p>該当15名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中の連携の機会があっただけ良かった。今後も進めてほしい。 ・「授業がよく分かる」で肯定的な回答をした児童・生徒の数が高いのは教師の方々の努力があっただけと受け止めています。 ・授業改善の努力をされ、成果を出しているとの評価は妥当 	
中・小・中の教育活動連携	相手の考えを生かし自分の考えを広げ深める力を育む。	<p>○「児童・生徒の自立的な学びを目指して」という研究主題をもとに、各校、研究授業を実施し、研究に取り組んだ。個々の教員が授業改善に取り組んでいる様子が見られ、授業改善についての意識も高まった。</p> <p>○ICT機器を効果的に活用して授業改善に取り組んでいる教員が増えている。</p> <p>○中学校は過去最高の貸出冊数を記録している。</p>	<p>①共通理解を十分図れずに進んでしまった。</p> <p>②更なるICTの効果的な活用</p>	<p>①児童が主体的に学び、思考力・判断力・表現力を伸ばすことができるようにする。</p> <p>②「個別最適な学び」、「協働的な学び」の具現化を図り、児童一人ひとりがぶる楽しさを感じながら考えを深め、表現できるようにする。</p>	<p>①国語科の校内研究を中心として「個別最適な学び」、「協働的な学び」を教科横断的に取り入れ、児童一人ひとりがぶる楽しさを感じながら考えを深め、表現できるようにする。</p> <p>②ICT機器の効果的な活用について、教員間で研修や情報共有を行い、指導に生かす。</p> <p>③読書初級や朝読書、探究的な学習等において学校図書館を効果的に活用し、本に親しむ機会を計画的に設定する。</p>	<p>①国語科の校内研究を中心として「個別最適な学び」、「協働的な学び」を教科横断的に取り入れ、児童一人ひとりがぶる楽しさを感じながら考えを深め、表現できるようにする。</p> <p>②ICT機器の効果的な活用について、教員間で研修や情報共有を行い、指導に生かす。</p> <p>③読書初級や朝読書、探究的な学習等において学校図書館を効果的に活用し、本に親しむ機会を計画的に設定する。</p>	<p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>4</p>	<p>国語科の授業改善に努めた上回答した教員は100%であった。また、とてもそう思うと回答した教員が前回より28%増加したことから、学園や校内研究が充実し、教員のモチベーションアップに繋がっていることが分かる。</p> <p>また、自分の考えをもち、友達と話し合ったり、協力したりする授業は楽しいと回答した児童は91.3%で前回より1.6%増加した。</p> <p>一方、あまり楽しめない、楽しくないと回答した児童は26.2%で、前回より9.1%減少、昨年より7%減少した。</p> <p>今後、支援が必要な児童については、その困り感に寄り添い、個に応じた指導や支援を継続的に行っていく。</p>	<p>該当15名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語科の授業改善、先生方の努力が素晴らしい！ ・国語科の授業改善が教員のみならず、子どもたちの学習意欲やコミュニケーション能力の向上にもつながっていることはとても良いと思います。 ・妥当である。教員の授業改善と児童の授業の楽しさは連動していると思います。 ・先生方の努力が、子どもたちの余力につながっている。 ・取組・成果ともに肯定的な回答が80%以上というところが妥当。 ・教員の肯定的評価が100%、児童の回答も80%を越えているので妥当。 ・心の育成、とても重要で大切ですね。更なる取組みに期待しています。 	
心身の健康・体力	伝え合う力を高め、自分も相手も大切にすることを育む。	<p>○学園の挨拶運動が実施でき、各校でも様々な挨拶についての取組も行われ、挨拶についての児童・生徒の意識が高まった。</p> <p>○学期初め、終わり等を中心に、児童・生徒への相談体制について、周知できた。日々の生活の中では、スクールカウンセラーを中心に、校内で相談体制を確立している。</p> <p>○「学校いじめ防止基本方針」を踏まえ、未然予防、早期発見、早期解決に組織的に取り組むことができた。中学校では「いじめゼロサミット」を2回開催できた。</p>	<p>①特別な支援を要する児童・生徒や不登校児童・生徒への対応(増加の傾向と多様多様な実態)</p>	<p>①相手の立場を考えたりのよさを認めたりしながら関わり合うとともに、自分も相手も大切に思うことができるようにする。</p>	<p>①あいさつ運動や「七小あいさつの日」の取組を、学校・家庭・地域とともに推進する。</p> <p>②全教育活動(道徳、特活、学校行事等)を通じて、「思いやり」や「生命尊重」を重点とした指導を継続するとともに、多様な他者と関わる機会を意図的に設ける。</p> <p>③「学校いじめ防止基本方針」に基づいた取組を着実に実施し、いじめの未然防止、早期発見、早期解決に組織的に取り組む。また、児童や保護者に相談窓口を周知する。</p>	<p>①あいさつ運動や「七小あいさつの日」の取組を、学校・家庭・地域とともに推進する。</p> <p>②全教育活動(道徳、特活、学校行事等)を通じて、「思いやり」や「生命尊重」を重点とした指導を継続するとともに、多様な他者と関わる機会を意図的に設ける。</p> <p>③「学校いじめ防止基本方針」に基づいた取組を着実に実施し、いじめの未然防止、早期発見、早期解決に組織的に取り組む。また、児童や保護者に相談窓口を周知する。</p>	<p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>4</p>	<p>自分も相手も大切にする心の育成を通して、安心できる学級・学年・教育現場に取り組んだと回答した教員は100%であった。各学年による協働はもちろん、他の教職員も含め多くの目で児童を見守り、心の育成や安心できる環境づくりに努めている。</p> <p>友達の上のよさを認めたり、思いやりのある態度で接したりしていると回答した児童は82.2%であった。また、あまりそう思わない、思わないと回答した児童は9.6%、分からないと回答した児童は8.2%であった。数値としては、前回よりほぼ変わらなかった。</p> <p>友達の良いところを見つけたり、思いやりのある行動をみんなで称え合ったりする活動をさらに工夫し、充実させていく必要がある。</p>	<p>該当15名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分も相手も大切にする心の育成に努むていく意識は大切ですが、学校全体で協働し、子どもたちの心を支え育てていくことはとても良いと思います。 ・児童の肯定的評価が100%、児童の回答も80%を越えているので妥当。 ・心の育成、とても重要で大切ですね。更なる取組みに期待しています。 	
心身の健康・体力	すすんで心と体の健康を大切にすることを育む。	<p>○発達段階に応じた体力・運動能力向上のため、令和5年度の食育研究学園(学校)としての取組を継続し、食に関する正しい知識や望ましい食習慣等について学び、市内産産物を活用した「給食メニュー」の開発に取り組んだ。</p>	<p>①体力、運動能力の向上と食育の推進</p>	<p>①健康な心身をつくっていくことを児童自身が意識し、活動等に取り組むことができるようにする。</p>	<p>①体力テストの結果や児童の実態を基に、具体的な体力向上の取組を行うとともに、健康教育や食育等、健康について考える機会も充実させる。</p>	<p>①年間を通して体育科の授業づくり、休み時間や通学途中、体育旬間の取組を工夫する。</p> <p>②基本的な生活習慣や感染症予防等、自ら考えて行動できるように家庭と連携して取り組む。</p> <p>③「今日の献立」紹介や6年生の給食献立作り等を通じて、バランスの良い食生活や二鷹野菜への関心を高める食育の充実を図る。</p>	<p>①年間を通して体育科の授業づくり、休み時間や通学途中、体育旬間の取組を工夫する。</p> <p>②基本的な生活習慣や感染症予防等、自ら考えて行動できるように家庭と連携して取り組む。</p> <p>③「今日の献立」紹介や6年生の給食献立作り等を通じて、バランスの良い食生活や二鷹野菜への関心を高める食育の充実を図る。</p>	<p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>4</p>	<p>体育科の授業づくり、健康教育、食育等、児童の健康増進の取組を実践した教員は96%で、前回より4.3%増加した。</p> <p>基本的な生活習慣として、健康のために手洗いがいをしたり、給食を残さず食べたりしていると回答した児童は82.5%で、否定的な回答は12.7%であった。</p> <p>また、運動習慣として、休み時間や体育など進んで体を動かしていると回答した児童は88.3%で、前回より3.6%増加、否定的な回答は約10%を前回と変わらず、分からないとの回答は約1.7%で前回より3%程度減少した。</p> <p>食育については、栄養士の献立紹介、献立作り、米作り、フードロスの学習、農作業の体験等を通して行っている。「中央学園スマイルアクション」の実用化とも関連させ、基本的な生活習慣の定着に向けた指導や家庭との連携、外遊びの推奨、運動への興味・関心が高まるような取組の工夫を継続している。</p>	<p>該当15名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育科の授業の取組、数値が見え今後の改善につながりますね。 ・基本的な生活習慣は家庭と連携が大切なので、子どもたちを通して保護者の方にも考えを深めていただけたらいいと思います。 ・今年からのもくもく食育の取組について報告を聞きたい。 ・取組・成果ともに肯定的な回答が80%以上というところが妥当。 ・児童の健康増進並びに食についての取組ですが、ぜひとも保護者に向けての発信もおもしろいところですね。
特色ある教育活動	関係諸機関や地域関係諸団体と協働して、児童・生徒の放課後や休日の学びを拡充する。(学校3部制の第2部の充実を図る。)	<p>○3校のみだか・地域未来塾の活動、三小、七小の放課後地域子どもクラブの活動、各種検定の実施等、地域人財、関係機関と協働して、児童・生徒の学びの場の提供を行った。</p> <p>○9年間の系統的な防災教育を、地域人財や関係機関と連携して実施することができた。</p>	<p>①三鷹中央学園として特色ある活動について、共通理解、共通実践を図って進めていくこと。また、地域人財や関係機関と連携しながら進めていくこと。</p> <p>○9年間の防災教育への教員の共通理解と共通実践</p> <p>○みだか・地域未来塾のさらなる充実</p> <p>○「三小、七小放課後地域子どもクラブ」及び「四中うらるびー」の充実、発展</p> <p>○各種検定の学園(小学生・中学生・地域)としての実施</p>	<p>①保護者・地域との「共有」「協育」を目指す。学校が地域づくりの核となるスクール・コミュニティを創造する。</p> <p>①学校3部制に向けて、保護者、地域等様々な方と知恵を出し合い、児童のためにできる活動の充実と継続を図る。</p> <p>②地域子どもクラブ、学習保育所、みだか・地域未来塾など、放課後(第2部)の活動の充実に向けてあそびネット会議等を活用して検討を進める。あわせて、もくもく食育との連携も強化する。</p> <p>③9年間の系統的な防災授業を実施する。</p>	<p>①防災授業、花壇作り等、アイデアを出し合い、活動を工夫していく。</p> <p>②地域子どもクラブ、学習保育所、みだか・地域未来塾など、放課後(第2部)の活動の充実に向けてあそびネット会議等を活用して検討を進める。あわせて、もくもく食育との連携も強化する。</p> <p>③9年間の系統的な防災授業を実施する。</p>	<p>①防災授業、花壇作り等、アイデアを出し合い、活動を工夫していく。</p> <p>②地域子どもクラブ、学習保育所、みだか・地域未来塾など、放課後(第2部)の活動の充実に向けてあそびネット会議等を活用して検討を進める。あわせて、もくもく食育との連携も強化する。</p> <p>③9年間の系統的な防災授業を実施する。</p>	<p>4</p> <p>4</p> <p>4</p> <p>4</p>	<p>学習ボランティア等、地域人財と連携して学校行事や授業等に取り組んだと回答した教員は前回と同じ100%であった。また、その人財活用によって、学びの拡充が図られたと回答した教員は86.3%で5.4%(1人分)減少した。</p> <p>どの教員も、人財を積極的に活用しようという意識は高い。その際、どのように活用すれば教育的効果がより高まるかという点に目を向けさせていく必要がある。</p>	<p>該当15名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアや地域人財を大いに活用してください。 ・今後様々な学びの中で地域人財を活用し、協働していただけるように思います。 ・人財活用で学びの拡充が図られた回答が減ってしまったのは、参加する側の意識向上も必要なのかなと思います。 ・教員の取組について肯定的な回答が100%というところが妥当。 ・人財活用に関しては、ぜひ地域関係者を巻き込んで共に進めて参りましょう。 	
教職員の質の向上を目指した学校の働き方改革	教職員の実勤務時間の縮減や疲労回復につながる働き方改革を推進する。	<p>○3校ともに、教員の意識改革が進み、起動時間も削減されている。</p>	<p>①学園、学校だけでは解決できないことが多いこと。</p>	<p>①教職員が児童と十分に向き合い、教育の質を向上させるために、積極的に働き方改革を推進し、教職員自身のウェルビーイングの実現を図る。</p>	<p>①各教職員が当事者意識をもち、組織目標の具現化や業務の効率化に向けて改善策等を主体的に企画・提案・実行できる職場風土を醸成する。</p> <p>①ICT機器を活用したペーパーレス化、会議の効率化を継続して。また、昨年度取得した教員は84%で、前回より18.6%増加した。</p> <p>②定時退庁日の設定や計画的な休暇を取得しやすい環境づくりを行う。</p> <p>③制度的な改革はすでに取り入れ、合意形成が必要なものは、関係各所への周知や検討、準備を進める。</p>	<p>①ICT機器を活用したペーパーレス化、会議の効率化を継続して。また、昨年度取得した教員は84%で、前回より18.6%増加した。</p> <p>②定時退庁日の設定や計画的な休暇を取得しやすい環境づくりを行う。</p> <p>③制度的な改革はすでに取り入れ、合意形成が必要なものは、関係各所への周知や検討、準備を進める。</p>	<p>3</p> <p>-</p> <p>4</p> <p>4</p>	<p>業務の優先順位化や効率化を図り、勤務時間を意識して働いたと回答した教員は72%で、前回より約3%増加した。また、昨年度取得した教員は84%で、前回より18.6%増加した。</p> <p>②定時退庁日の設定や計画的な休暇を取得しやすい環境づくりを行う。</p> <p>③制度的な改革はすでに取り入れ、合意形成が必要なものは、関係各所への周知や検討、準備を進める。</p> <p>一方、優先順位や効率化、時間に対する意識について、あまりできなかったと回答した28%の教員については、日常的に管理職から声をかけ、業務の進め方を助言したり悩みごとの相談にのったりしている。</p>	<p>該当14名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務の効率化のための意識改革は課題ですね。学校だけの問題ではないです。 ・各学校における評価の違いはありますが、教員のワーク・ライフ・バランスの更なる取組を期待します。 ・先生方が日々頑張ってくださいということが良くわかります。地域人財の活用で先生方の負担が減らされて、働き方改革につながるといいなと思います。 ・取組・成果ともに回答からみられる割合に即しての評価なので妥当。 ・なかなか難しいところもあるでしょうが、ぜひ一つ一つ検討し進められてください。 	